別紙様式（B4横型）

令和2年度　学 校 自 己 評 価 表　（計画段階 ・ 実施段階）

学校番号 75

福岡県立八女工業高等学校長　印

学 校 運 営 計 画 （4 月）			総合評価
学校運営方針	校訓の精神と教育目標を継承した上で、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために、「Challenge（挑戦），Creation（創造），Collaboration（協働），Contribution（貢献）」を学びのキーコンセプト（4C）とする実践的・体験的な教育活動を推進する。		A
昨年度の成果と課題	本 年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
【成　果】 学校生活に目標を持って意欲的に取り組む意識を醸成することができ、学習活動・部活動・資格検定試験・工業に関する大会コンテスト等、様々な場面で生徒の活躍を見ることができた。また、進路指導においても、企業及び公務員に関する実績において、すばらしい成果を挙げることができた。特に第27回全国高等学校ロボット競技大会にて初優勝し、文部科学大臣賞に輝くという立派な結果であった。また、1年生チームも大健闘し、経済産業大臣賞をいただいた。 【課　題】 授業の改善・充実に努め、学習評価の在り方を検討し、今年度から観点別評価を行い教科指導力の向上を図りたい。また外部模試等の活用が不十分であり、客観的評価による現状把握及び対策強化が必要である。 交通事故防止をはじめとする生徒指導に係る諸課題への、生徒の自主的・主体的取組を進め、生徒の自己指導能力向上を図りたい。	・授業改善・充実に努め、観点別評価を導入し、教科指導力の向上を図る。 ・主体的に学習する姿勢と確かな学力を育成する。	・主体的・対話的で深い学びのためのアクティブラーニング型授業の推進やICT機器の活用を図る。 ・指導と評価の一体化を目指した学習評価のあり方を検討し、目標に準拠した評価・観点別評価を確立する。 ・基礎力診断テスト及び資格検定試験を有効活用し、学ぶ姿勢を含めた学力向上を図る。	
	・積極的生徒指導を基本とし、多方面からの生徒育成を推進する。 ・自己指導能力の向上を図り、心豊かな人間の育成を目指す。	・挨拶、マナーや交通安全等、生活全般にわたる積極的生徒指導を展開し、社会人として求められる資質能力を生徒自身が理解し身につける取組を実施する。 ・生徒会を中心とする生徒の主体的取組を促し、自ら考え判断し行動する生徒育成を行う。	
	・進路指導の体系化を推進し、キャリア教育の充実に努める。 ・進路目標実現に向け努力を継続する生徒を育成する。	・就職及び進学に対する計画的かつ組織的な指導体制を充実させ、進路指導の体系化を構築する。 ・各学年での適切なガイダンスと意識を高める取組を企画し、キャリア教育の充実を図る。	
	・修学支援・教育相談における校内および外部機関との連携を推進する。	・豊かな人間性を育む道徳教育の充実を図り、社会の一員としての自らの在り方、生き方を考える力を育てる。 ・校内の教育相談体制をさらに充実させ、外部機関との適切な連携による、いじめや不登校等の早期対応・解決に努める。	
	・ものづくり教育や資格取得等、各学科の特色化及び充実を図る。	・生徒全員のジュニアマイスター認定を目指し、各学科の計画的指導体制を構築する。 ・課題研究を充実し、課題発見・課題解決能力の育成に取り組む。	
	・創立百周年へ向け、八工生としての誇りと責任感を育成する。	・生徒が主体的に運営する学校行事や部活動を展開することにより、全生徒が活躍できる場を提供する。 ・リーダーの育成を進め、所属感や達成感を高める特別活動を展開する。	
	・社会に開かれた学校づくりに取り組む。	・多様な広報媒体活用による積極的かつ戦略的広報活動に取り組む。 ・出前授業やボランティア活動等による外部機関への積極的支援活動を展開する。	

評 価 項 目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
学 務 課	・確かな学力の育成	・「ドリカムシート」を活用し、生徒の自学自習力の定着や自己研鑽力を育成する。	A	B	B	・休校の影響で授業時数の確保が困難だったため、今後の授業のあり方を再検討し、新しい生活様式に合わせた新たな授業形態を確立させていくことで確かな学力を育むことが課題である。 ・実力診断テストは、授業時数の確保のため、3学期のみの実施になったので、1年間での学力の推移を示すことができなかった。また、結果を踏まえた課題発見後の指導にどう生かしていくかを、診断テストのあり方も含め検討し直す必要がある。 ・コロナ禍の中、表現力や思考力を深めるために、ICT活用の必要性が増した。全教科で必要なときにいつでも利用できる環境は徐々に整ってきているので、その活用法をすべての先生方に還元できるように、研修課と連携していきたい。 ・中学生への広報活動の場は例年に比べると少ないが、限られた機会で充実した広報活動を行っていきたい。 ・観点別評価を実施したことで、考査の結果のみに偏らない評価を全教科で行えた。ただし、各教科の実施状況を把握し、評価の観点の精選を行うことで、生徒の能力を幅広く評価に反映させていき、長いスパンで結果への結びつきを研究する必要がある。 ・成績入力に関する課題も見えてきたので、ミスを可能な限り防ぐ様な具体的な手だてを施すことが今後の課題である。
		・実力診断テストの結果を踏まえ担当者と連携し、個人の課題発見と基礎学力の向上を目指す。	B			
		・時制の変更や特別時間割等により、1単位35時間の確保を目標とする。	C			
		・研修課と連携し、表現力や思考力を深められるような授業の啓発、支援を行い授業改善につなげる。	B			
	・ものづくり教育の充実	・企業や大学との連携を推奨し、課題研究や実習等における質の高い教育実践を行う。	C	A		
		・必要とされる資格を精選することで、計画的な資格取得を支援する。	A			
		・学校説明会や出前授業等を積極的に行い、中学生への広報活動の充実に努める。	A			
	・成績改善対象者や長期欠席者等への対応	・担任や教科担当者と連携をとり、対象生徒に対し、早めの声かけや計画的な補習を行う。	B	B		
		・各教科において、考査の結果のみに偏らない総合的な観点別の評価の定着に努める。	B			

評価の基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

庶務課	・綿密な行事計画の企画立案を行う。	・朝礼後に業務の進捗状況を共有し、協力して業務を遂行する。	A	A	B	・学校行事について コロナ禍の影響で、始業式・終業式を含む様々な行事が実施形態その他で変更になったにも関わらず、職員会議等で各部、学科学年等との行事の調整が取れず、行事予定を組む際に正確に反映させれないことが多々あった。一方、クラス用、職員用行事予定の作成は、滞りなく作成することができた。次年度は各部、学科、学年との連携をさらに密にして、確実に行事計画に反映させたい。 ・PTA行事等について 実施できたPTA行事等は、校内理事の先生方と協力して行うことができたが、コロナの影響で多くが中止となった。次年度、状況を踏まえて行事の精選を考える。
		・共有サーバーのホルダー構成を再確認し、業務の効率化に努める。	A			
		・業務分担や業務内容の明確化を図り、早めに準備できるようにする。	B			
	・PTA・同窓会との連携を深め、活動を支援する。	・PTA及び同窓会主催行事において、全職員で全力で支援・協力する。	B	B		
		・学校行事に保護者が多数参加していただけるように、早期の広報活動を徹底する。	B			
	・関連部署との連携を図 り 、データの活用を推進する。	・行事の実施案を早期に提示し、調整に時間的な余裕を持たせる。	B	B		
		・行事記録を整理し、関連部署との連携を推進する。	B			
		・学校行事のいろいろな場面でICT機器活用を推進する。	A			
図書・情報課	・学校図書館の充実と利用促進	・図書館蔵書の充実を図り、館内整備に努め、生徒が利用しやすい環境づくりに努める。	A	A	A	・蔵書については、生徒や職員の希望を聞き、蔵書の充実を図ることができた。また、定期購読雑誌の見直しや、生徒による図書紹介POPの掲示など、生徒がより利用したくなるような環境づくりに努めた。 ・図書館報の発行回数が3回に留まってしまったことが課題である。来館者や貸出冊数増加のため、情報発信に力を入れる必要がある。 ・今年度は、外部との交流の機会がとれなかったことが非常に残念な点である。しかし、図書館報の学校HP掲載や、文化祭展示・全校読書会の実施方法を見直すことで、生徒が図書に親しむ機会をできる限り設けることができた。 ・授業等での図書館利用が未だに少ないことが課題である。各クラスHRや専門科・普通科の授業等で、先生方が気軽に利用できる場所になるように努めたい。
		・来館者と貸出し冊数の増加のため、選書方法の改善や広報活動に努める。	B			
		・校内読書感想文・小論文ｺﾝｸｰﾙを開催し、表現力の育成を図る(国語科と共催)。	A			
	・生徒図書委員会の活性化	・生徒図書委員会による図書館報の年5回以上の発行、カウンター当番などの主体的活動を促す。	B	B		
		・他校の委員会活動との交流や読書会など、研修会への積極的な参加を促す。	B			
	・文化的行事の運営と情操教育	・芸術教室で芸術・芸能に触れさせ、感性を磨かせ、鑑賞マナーを身につけさせる。	B	B		
		・全校読書会・意見交流会を実施し、読書への関心を高め、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を養う。	A			
		・知性と教養を育む自己研鑽の場、適切な情報発信の場となるよう努める。	B			
	・ 広報活動の促進 ・ 充実	・ 八工Ｎｅｗｓを年５回以上発行する。	B	A		・休校や行事の中止等により発信する情報は例年に比べ少なかったが、学校HPやTwitter、八工安心メールを活用し最新の情報を発信することができた。 ・休校期間中の課題や授業支援動画、各科紹介動画等、コロナ禍だからこその広報活動を行うことができた。これを基に、今後も動画発信等積極的に実施したい。 ・新規情報発信ツールとして、Twitterを開始した。情報発信はもちろん学校HPへの誘導もでき、アクセス数が増加している。
		・ 学校ＨＰ、 校内掲示板の迅速な更新、 管理運営を行う。	A			
		・ 学校案内を充実させ、 本校に興味が持てるものにする。	B			
		・ 中学校訪問時の資料等の常時更新と最新の情報発信に努める。	A			
		・ 新規情報発信ツールの活用に取り組み、 生徒募集増加につなげる。	A			
	・ ネットワークの安定運用 ・ ＩＣＴを活用した効果的な授業の推進	・ 情報セキュリティ対策をしっかり行う。	A	A		成果と反省： ・小項目は概ね達成できた。学校管理のタブレット端末は近日中に稼働できる。とにかく、コロナ禍においては情報端末機器の早急の整備が必要である。ネットワークが遅いのは相変わらずだが、安定運用できている。 次年度の課題： ・タブレット端末をできる限り多く使えるよう尽力すべきである。 ・ZOOMの可能性を探り、有効な利用方法を確立する。 ・ICTを使った授業をもっと推進できるようにする。
		・ ネットワークの安定運用を図り、 新システムへの対応を迅速に行う。	A			
		・ 校務用サーバのデータの整理・適正化・暗号化を図る。	B			
		・ ＩＣＴを活用した効果的な学習活動に寄与するような授業の推進を図る。	A			
生徒指導課	・規範意識の醸成と自己指導能力の育成	・基本的生活習慣を確立させ、服装や挨拶など八工生として自覚と責任ある行動ができる意識づくりを行う。	B	A	B	・今年度は、年度初めに行う新入生指導ができなかったため、1年生の八工生としての自覚、そして3年生の最上級生としての自覚を育成させる機会が少なかった。問題行動については、早期に対応し組織的に情報共有することができた。対応についても、担任の先生をはじめ、学科との連携・協力ができ、早期発見、早期対応に繋げることができた。 ・登下校の交通指導や二輪車安全教室など、担当の先生方が啓発を行いながら、交通ルールやマナーに関する指導は行ってきた。しかし、課題とすることは未然に事故を防止することである。そのため、次年度はより啓発活動に力を入れていきたい。 ・今年度は生徒会や学科リーダーが主体となって行う行事が少なく、自覚や責任感を育む機会が少なかった。しかし、唯一全学年で行った八工フェスティバルでは、生徒会が計画段階であらゆる感染対策を考え、責任感をもった行動ができたと思う。学科リーダーは航空写真撮影において、全校生徒を誘導するなど、スムーズな運営に貢献した。次年度は、創立100周年行事や様々な行事を通して、生徒会・学科リーダーを中心に、八工生としての自覚と誇りを育成していく。
		・問題行動が生じた際には、速やかに情報共有を行い、一人に負担がかからないようにチームで取りかかる。	A			
		・「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図るとともに、「いじめの早期発見・早期対応」を組織的に実践する。	A			
	・交通安全教育の推進	・登下校の交通指導や二輪車安全教室を通して、交通ルール・マナーに関する意識の高揚を図る。	A	B		
		・交通安全教室や、交通担当からの安全運転の啓発を適宜行い交通事故を未然に防止する。	C			
	・生徒の自主的活動の充実	・部活動を通して豊かな人間性の育成と体力の向上と健康の増進を図る。	A	B		
		・学校行事等における生徒の自主的運営の更なる充実を目指す。	B			
		・挨拶運動のみならず、場に即した生徒の自主的啓発活動の充実を図る。	B			
		・生徒会や学科リーダー等による主体的な活動を促していくとともに、八工生としての自覚と誇りや責任感をもたせる。	A			

評価の基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

保健環境課	・自己管理能力の育成	・毎日の健康観察を通じて感染症等の予防と早期対応による感染防止に努める。	A	A	A	・コロナ禍では、計画したこと以外での対応が多かった。教職員全体で消毒対策などに取り組んでいただき、ご協力していただいた。生徒保健委員会では液体せっけんの補充や冷水機掃除、教室の換気対策など学校行事が少なかったが、日常生活の中で多くの役割を果たすことができた。 ・ゴミの分別や廃棄場所の間違いなどが複数回あったので、年度当初の確認だけでなく、美化委員から学期ごとに注意喚起を徹底できるようにしていく。また、美化委員としてプランターの水やりなどにも取り組んだ。 ・SCの活用は、希望する生徒・保護者に向けて実施することができた。生徒向けの「SCたより」も発行していただくなど情報発信も行うことができた。
		・各種行事を通じての健康・安全への啓発と実践力の育成を図る。	B			
		・保健委員長をリーダーとし、保健委員会の自主的活動の活性化を図る。	A			
	・美化意識の向上と環境保全	・定例の美化委員会を通して、生徒の校内美化についての意識の向上を図る。	B	B		
		・美化委員長を中心に各クラス美化委員が、清掃への取組を積極的に行う。	A			
		・美化委員としての美化に対する意識を、学校行事を通して高めていく。	B			
	・修学支援・教育相談の充実	・担任、各分掌、SC、SSW、関係諸機関と連携して組織的な修学支援を行う。	A	A		
		・生徒・保護者に対する啓発ならびに情報提供に努め、相談しやすい体制をつくる。	A			
		・一人一人の人権が大切にされている学校づくりを進めることによって生徒の修学を保障する。	A			
就職対策課	・企業就職希望者の100%内定合格を目指す。	・就職対策課で得た求人情報を担任等へ共有化する。その情報を基に対策を考え、生徒が社会的・職業的自律に向けて成長できるように支援する。	A	A	A	・各先生方で来客対応（電話）していただいた企業情報や、求める人物像等をメモで知ることができた。そのメモをアナログからデジタル化した結果、多くの先生が瞬時に調べる事ができた。 ・女子の就職先は、来客対応等の際、確実に採用実績や女子寮等の施設設備を聞いて頂いたお蔭で状況が分かりやすかった。 ・次年度への課題としては、感染拡大防止の為、リモートでの企業説明会等増えると考えられる。場所の確保や慣れる事が課題である。また、今年度以上に求人社数が減少すると考えられるので、「コミュニケーションカの向上」「メンタルの強化」を3学年と協力する。さらに、報告書をデジタル化を行い先生方がすばやく過去の試験内容を検索出来るように準備することにより、民間就職希望者100%合格内定を目指す。 ・朝課外や土曜セミナーでは、先生方のお蔭で学習支援ができた。今後の課題としては、難関であった警察等の公務員希望者を早期に把握して適切なアドバイスを行う。模試の結果を踏まえて、限られた時間の中で、学習を習慣化させるため、家庭学習を意識づけをさせる。 ・進学の個人面談で、希望に添えるように情報収集を計画的に出来た。受験対策として放課後等に追加指導（数学）も実施し学習支援を継続して行った。 今後の課題としては、現状の力量を生徒に把握させ、ワンステップ上の目標を掲げさせて力をつけさせる。
		・女子支援の面談を通じて情報を共有化し、女子の企業選択のミスマッチが無い様に努める。	B			
		・積極的生徒指導を実施し、高校生らしい身だしなみを常に保つ力を育てる。	A			
		・企業が求める社員像などについて考えさせ、担任との連携を図る。	A			
	・公務員希望者の100%合格を目指す。	・二次試験対策（面接の対応）を具体化し、早めの準備を行わせる。	B	B		
		・各教科と協力しながら朝課外や土曜セミナーの年間計画を明確にし、学習支援を継続する。	A			
進学指導課	・学習意欲の喚起を促し、基礎学力の向上を目指す。	・朝課外や土曜セミナーを有効に活用し、年間計画の体系化を図り組織的な取り組みが学習支援につながるように努める。	A	B		
		・入試方法や入学後のカリキュラムに関する詳しい情報の収集に努めて提供し、継続した学習習慣につながるように支援する。	B			
	・主体性を育て、第一志望での100%合格を目指す。	・進学希望者に対して面談等を行い、生徒自ら積極的な進路選択が出来るように導く。	A	A		
		・「進路指導の手引き」や進路資料室の活用、オープンキャンパスへの参加を促し、自ら考えて目的達成に向けて取り組ませる。	B			
研修課	・『主体的・対話的で深い学び』を実現するためにアクティブラーニングの視点に立ったICTを活用した授業改善の推進	・研究授業月間を設け、共通テーマの下に授業改善に努め、教科の指導力向上を図る。	A	A	A	・授業改善にむけて、コロナ禍の中、ICT活用が進んだことは良かった。ただ、授業アンケートの結果から得られた課題については、研究できるように、外部講師を招いた形での研修会を開催できなかったことが残念である。実施するに足るコンテンツや実施するための方策を次年度は模索していきたい。 ・アクティブラーニングの取組状況については、授業アンケートの第1回と第2回であまり変化がなかった。現状を考えればやむを得ないが、できることから取り組んでいただくように職員研修などを通して働きかけていきたい。 ・職員研修については職員のニーズにできるだけ答えることができるように事前に希望する研修内容をアンケートで調査するなどの工夫を行い充実を図りたい。
		・授業アンケートを年2回実施し、教員の授業改善と生徒の自学力育成を図る。	A			
		・授業アンケートの集計・結果報告書作成等を速やかに行い、結果を還元する。	A			
	・職員研修の充実	・本校の教育課題に応じた校内職員研修会の充実を図る。	A	A		
		・教員の自己研鑽の場として、校外研修への積極的な参加を促す。	B			
		・組織的な指導体制をつくり、充実した初任者研修を実施する。	A			
	・研修成果の還元と共有	・研究紀要の作成を計画的に行い、研修の成果を職員に還元する。	A	B		
		・各研修会の報告会を実施し、研修成果を共有する。	C			

評価の基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

人権教育	・人権教育の充実と発展	・学校の教育活動全体を通じて人権教育を推進し、全ての関係者の人権が大切にされている学校づくりに努める。	A	A	A	・全校や学年といった単位で生徒を集めて話すことが難しいなか、動画や校内放送などでなんとか教育内容を提供することができた。引き続き「ありのままの私」が尊重されることを中心に据え、人権が大切にされている学校づくりを進めていく。 ・人権教育関係の研修会が軒並み中止となり、研修の機会が失われてしまったが、来年度は状況に応じた研修ができるよう工夫したい。
		・生徒の実態とニーズに応じた人権教育授業を実施し、「ありのままの私」で生きられる、人権が尊重される社会を実現しようとする主体を育てる。	A			
		・職員の研修参加態勢の充実をさせ、人権教育に係る指導力の向上を図る。	B			
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・三点固定（起床時間・自宅学習開始時間・消灯就寝時間）を推進し、生活リズムを確立する。	A	A	A	・1学期は休校期間が長く続いたため、学校が再開しても生活リズムを取り戻すことに時間がかかった。しかし、2学期、3学期では、各生徒が生活リズムの改善に努め、充実した学校生活を過すことができた。 ・2学期、3学期では、短期間に資格試験が続いたが、しっかりと目標を定めて取り組むことにより、多くの生徒が資格試験に合格した。 ・来年度の課題としては、2学年として、学校行事等を運営するため、主体的・積極的に行動できる生徒の育成に努めたい。
		・生徒が心身ともに健康で過ごせるように、学年団で情報共有を図る。	A			
	・規範意識の向上	・礼儀、身なり、規則や時間を守ることの指導を徹底する。	A	A		
		・学校行事や部活動に対して、主体的に参加する姿勢を養う。	A			
	・学習習慣の確立と基礎学力の向上	・課題等の提出期間を厳守させることで、学習習慣を身に付けさせる。	B	A		
		・進路実現に向けて専門的な資格取得を積極的に挑戦させ、目標を持った学習態度を育成する。	A			
第2学年	・キャリア教育の充実	・インターンシップ、修学旅行のための事前学習、現地での体験学習を通じて、これからの生き方につなげる。		A	A	・今年度は、新型コロナウイルス感染症のために学年行事であるインターンシップや修学旅行などの進路や学年、クラスでより深まるための絶好の機会がなくなった。その中での2学年の先生方の協力のおかげで生徒たちは、資格試験、考査、部活動の大会等に前向きに取り組み成果も発揮した。 ・コロナ禍で、中々コミュニケーション能力を高める機会がなく、挨拶のやり方など新しい生活様式の挨拶の仕方を検討することも必要と感じた。また、主体的な取り組みをできた生徒もいたが、そうでない生徒も見受けられた。次年度は、先生方と今年度の課題を共通認識のもと、取り組んでいきたい。 ・生徒は職員の鏡である。そのため、生徒を通じて生徒から学び、師弟同行の精神で次年度は最上級生としての自覚ある行動がとれる学年を目指す。
		・進路実現のための日々の学習、資格取得へのチャレンジ、各競技大会、ボランティア活動等の積極的参加による人格形成を図る。	A			
	・基本的な生活態度の向上	・皆勤賞80%（学年192名、各クラス32人以上）を目指す。	A	A		
		・自信をもって積極的に挨拶や返事、先生方に自ら会話ができるようになる。	B			
	・主体的行動の実践	・生徒一人ひとりが自分の目標を達成するために失敗を怖れず、主体的実践活動を通じて自信を深める。	B	B		
		・教室内や2階廊下、トイレ等の環境整備、率先した奉仕的活動の実践者を育む。	B			
第3学年	自立できる生徒の育成	・皆勤賞200名以上を目指す。	B	B	A	・進路実現については、学校全体の協力により達成することができた。一次試験に不合格になった生徒に対してもキャリア教育部や専門科、学年での組織的な対応ができ全体に感謝します。 ・学校行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催が困難な状況で、八工フェスティバルを開催できたことにも感謝します。少ない行事の中でも生徒たちが自分たちで企画し行動できたことが成長に繋がった。次年度も無理のない開催をお願いしたい。 ・コロナ禍の状況で、インターネットを利用した企業説明会や試験が始まっているため対応できる環境整備と、学校情報を発信する方法・組織体制も必要だと感じた。
		・社会で通用する身だしなみ、礼儀、コミュニケーション能力の向上を目指す。	A			
	個々に応じた進路実現	・担任や学科だけでなく専門家の支援や組織的な支援体制を構築し、個々に応じた進路を実現する。	A	A		
		・進路希望を明確にし、実現のために必要かつ社会で生き抜くための知識を身に付けさせる。	A			
	最上級生としての自覚と誇りを持つ	・たくましく社会を生き抜くための主体性と協働性を、学校行事を通し身に付けさせる。	A	A		
		・リーダーシップとフォロワーシップ精神により、互いに成長できる環境をつくり自分の役割を果たせる生徒の育成。	B			
電子機械科	・授業の改善と充実に努める	・主体的・対話的で深い学びのためのアクティブラーニング型授業の手法と、評価の方法を研究し実践する。	B	B	B	リーダーシップおよびコミュニケーション能力の育成について，クラス全体また、学科全体に広げていく必要がある。生徒の自立を育成できるように来年度も学校行事等様々な場面を活用し継続して指導を続けていきたい。 工業技術基礎、実習、課題研究については、科目の特性に合わせた評価方法の必要がある。来年度も継続して取り組んでいきたい。 資格取得についてはコロナ禍において予定通り実施出来なかったが、2学期以降の良好な結果を残す事が出来た。 各種大会等の中止により今後の取り組みと生徒のモチベーション維持に努め、来年度に繋がるように指導する。
		・進路先の実務内容に対応出来る授業と実習の連携を強め、ICT機器を積極的に活用する。	B			
		・授業と関連の深い資格試験を積極的に活用し、学ぶ姿勢と学力の向上を図る。	A			
	・社会人としての基本マナーと社会常識を習得させる ・インターンシップを通して職業観・勤労観を養い、実社会で生きる力を育成する	・問題解決能力とコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成を図る。	B	B		
		・インターンシップを通して、機械の業務に必要とされる責任感・安全性・使命感等の人間性を育てる。				
		・進路については、本人・保護者の希望をしっかりと聞き尊重した上で、適切な指導を行う。	A			
	・職員、生徒ともに専門性を高める。	・科の特性をふまえた適切な指導・助言に努め、ロボット競技全国上位入賞を目指す		B		
		・全職員で学習指導や面接指導、インターンシップ、企業訪問等に力を入れる。	B			
		・製図検定、技能検定機械系、計算技術検定等、学科の専門性にあった資格取得を推進し、生徒全員をジュニアマイスターにする。	B			

自動車科	・授業の改善と資格指導の充実に努める。	・主体的・対話的で深い学びのためのアクティブラーニング型授業を展開すると共に、新学習指導要領に沿った、新しい評価の方法を研究し実践する。	B	B	A	・主体的・対話的で深い学びを実践するための授業手法および新しい評価の方法については、積極的に実践・検討を重ねてきたが、まだ改善の途中である。したがって、来年度以降も取り組みを継続していきたい。 ・感染症対策が行われている中、科職員全員で、できる限りの手を尽くしてキャリア教育の充実に取り組んだ。その結果、3年生の95%の生徒が第1希望の進路を実現できた。来年度もこの取り組み続け、全員が第1希望の進路を実現できるよう指導を行っていきたい。 ・本年度は、課題研究の指導の充実に力を入れ、自動車科生徒が学校を代表して参加した、令和2年度第30回福岡県生徒研究発表会で優勝する事ができた。来年度も引き続き課題研究の充実に取り組むとともに、ベテラン教員から若手教員への技能の伝承を推進していきたい。
		・座学や実習において、ICT機器を積極的に活用した授業を展開する。	A			
		・学科の授業内容と関連の深い資格試験を積極的に活用し、学ぶ姿勢と学力の向上を図る。	B			
	・キャリア教育を充実させ、生徒の自己指導能力を向上させる。	・学校生活のあらゆる場面で、リーダーシップの育成および協働的な意欲と態度の育成に努める。	A	A		
		・科職員が一丸となって3年生の進路指導を行い、生徒全員、第1希望の進路を実現させる。	A			
		・3級自動車整備士合格率100%を目指す。	A			
	・職員の専門性を高め、教科指導力を向上させる。	・課題研究を充実させ、福岡県生徒研究発表会で優勝を目指す。	A	A		
		・エコデンカー全国大会で5位入賞を目指す。	B			
		・学科内で最新の自動車工学や整備に関する研修会を実施し、技術・技能の伝承を図る。	A			
電気科	・座学と実験・実習との連携を強め専門教科の指導を充実させる。 ・自ら学習する意識と行動力の育成を目指す。	・進路先の実務内容に対応できる実習内容と座学連携を強める。	B	A	A	・コロナ禍のため実習内容や実施形態に制約があり、従来どおりの形ではできなかったが、ICT機器や通信技術を利用した新しい形の実習を実施した。今年度は試行錯誤した部分が多かったが、来年度はより効果的な運用ができるように取り組む。 ・インターンシップや工場見学が中止されたことは残念であったが、社会人としての基本マナーや責任感の育成に重点を置いて指導した。 ・実習では必ずKYT(危険予知トレーニング)を意識した安全教育を実施し、効果が上がっていると考えている。来年度も本年度同様、実習のあらゆる場面で安全教育に取り組む。 ・第二種電気工事士は目標通り全員合格することができた。また、第三種電気主任技術者に合格するなど、高度な資格取得も実現できたので、この指導法を発展させ、来年度も多くの国家資格取得に取り組む。
		・ものづくりに関連する項目を各学年で設定し、生徒の意欲・関心を高めるため実習の項目の目的を強め、学力の向上に繋げる。	A			
		・問題解決能力とコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成を図る。	A			
	・社会人としての基本マナーと社会常識を習得させる ・インターンシップや工場見学を通して職業観・勤労観を養い、実社会で生きる力を育成する	・日頃より服装、挨拶、清掃、遅刻、欠席、言葉遣い等に対しての指導を徹底する。	A	A		
		・学校や科・クラスへの帰属意識を高め、学校行事に積極的に参加する意識を養う。	B			
		・インターンシップや工場見学を通して、電気の業務に必要とされる責任感・安全性・使命感等の人間性を育てる。	／			
	・第二種電気工事士の全員取得を目指す ・職員間での進路に対する共通理解と企業情報を共有して、生徒の進路実現を目指す	・第二種電気工事士の全員取得を目指す。	A	A		
		・高度資格の指導を行い、自ら学び成長し社会貢献する意識を育てる。	A			
		・全職員で学習指導や面接指導、インターンシップ、企業訪問等に力を入れる。	A			
情報技術科	・自ら考え行動する力を育て、心豊かな人間の育成を目指す。	・学校行事を生徒主体で行わせることにより、自ら考え行動する力を育てる。	B	A	A	・学校活動(学校行事等)を生徒主体で行い、自ら考え行動できるように、発表する機会や活躍する機会を増やし、コミュニケーション能力の向上・主体性・リーダーシップ性の育成に取り組む。 ・ITパスポートの取得を希望する3年生の約70%が合格する。2年生で受験した方がメリットがが大きいため、現在の資格取得計画を見直す。今年度はジュニアマイスター特別表彰6名、ゴールド認定10名、計16名であった。次年度は特別表彰・ゴールド認証、計20名以上を目標とし、家庭学習の継続を促す。 ・昨年度から始めたeスポーツでは他校との実力の差を感じたが、本年度は国体に出場することができた。今後も、技術力・チームワーク・コミュニケーション能力等を高めていきたい。ものづくりコンテスト(電子回路組立部門)では新型コロナの影響で県大会が行われなかった。次年度は上位を目指す。 ・本年度は新型コロナの影響で工場見学、インターンシップ等が実施できなかったので、企業DVD等を活用し、生徒ができるだけ職業観・勤労観を育くめるようにした。3年生は就職・進学100%合格。今後も目標とする進路実現に向けて指導ができるような体制づくりを行う。
		・クラス担任や教科担当者と協力し、生徒の状況を的確に把握する。他人を思いやる心や感動する心および協調性を養い、社会貢献する意識を育てる。	A			
		・遅刻・欠席・早退を減らし、各学年において皆勤者を25名以上目指す。	A			
	・キャリア教育を充実し、主体的に進路を選択できる能力を育む。 ・基礎と基本を重視した学習指導を行い、学力の向上を図る。 ・資格取得のための指導充実を図る。	・基礎・基本を重視し、特に電気基礎・電子回路の指導を充実する。 さらに最新技術であるAI、eスポーツ等に取り組む。	A	A		
		・ITパスポートなど専門的な資格取得を強化し、70%以上の合格率を目指す。	A			
		・あらゆる機会で発言する場を設け、社会で必要とされているコミュニケーション能力の向上を目指す。	B			
		・家庭学習を充実させ、ジュニアマイスターゴールド認定20名以上を実現する。	B			
	・実践的技術者としての意識と資質を育む。 ・ものづくり活動の指導を充実する。	・ものづくりコンテスト(電子回路組立部門)の上位入賞を目指し、さらに取り組みを強化する。	B	B		
		・産学官連携産業人材育成事業・工場見学などを活用し、しっかりとした職業観・勤労観を育む。	／			
		・3年担任をサポートし、一人ひとりの進路実現を目指す。	A			

評価の基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

土木科	・主体的に学習する力を育成する。 ・学習に対する意欲関心を高める。	・基礎と基本を重視した学習指導を行い、観点別評価を取り入れ学力の向上を図る。	B	B	B	・観点別評価を取り入れたが、それが学力向上に繋がっているかが不透明なので、今年度の課題を整理し来年度に活かしていく。 ・ICT機器の活用については、積極的におこなうことができたが、休校の影響もあり、授業を進めるので精一杯でグループワーク等を積極的に取り入れることができなかった。 ・面接でアピールできない生徒が多くみられたので、日ごろから生徒の発言する場を増やしコニュニケーション能力の向上を図る。 ・資格試験については、日程変更で苦労した部分は多くあったが、職員間で連携し、生徒のモチベーションを維持することができ成果を上げることができた。次年度は全員、ジュニアマイスターを取得できるよう指導していく。 ・進路については、来年度は企業だけでなく、公務員の募集も減る可能性があるので、学力だけでなく人間性においても実力ある生徒を育成し、成果を上げるよう努める。 ・多様化していく生徒に対応するため、職員間での生徒情報の共有と共通認識を深め、必要に応じて連携して生徒への対応を強化していく。
		・アクティブラーニング型授業の展開やICT機器の活用を図り、生徒を主体とし対話的な授業の展開に努める。	B			
		・進路実現のため、教科及び面接指導など指導体制の確立と学習支援の充実を図る。	A			
		・職員の専門教科における情報の共有を深め、国家資格取得のため指導充実を図る。	A			
	・実社会で生きる力を育成する。	・授業、実習、行事等を通して社会人として求められる資質能力の育成を図る。	A	A		
		・職員間での生徒情報の共有と共通認識を深め、きめ細やかな指導を行う。	A			
		・好感の持てる挨拶や返事などの社会人としてのマナーを育成する。 ・HR活動を通して、生徒の発言する場を増やしコミュニケーション能力を育成する。	B			
		・体調管理を徹底し、欠席・遅刻・早退を減らし各学年皆勤30名以上を目指す。	A			
	・国家資格の取得やものづくり教育の充実に努める。 ・実践的技術者としての意識と資質を育む。	・インターンシップや現場見学等の現場体験を充実させ、土木職に対する意識向上を図る。		B		
		・測量士補合格25名以上、2級土木施工技術検定30名以上合格を目指す。 ・生徒全員のジュニアマイスター認定を目指し、シルバー以上の認定者25名以上を目指す。	A			
		・高度熟練者による実習指導等を活用し、生徒の勤労観・職業観を育成し進路意識を高める。				
工業化学科	・主体的に学習する意欲と学力の向上を目指し、確かな学力を育成する。	・生徒が目標を持って主体的に授業に臨めるよう、専門教科や実習における評価方法を確立させ、明確にする。	B	B	B	・引き続き、特性に合わせた評価方法を教員間で話し合うことで、今年度不明瞭な部分を改善し、評価方法を確立させていきたい。 ・自身の役割を考え責任ある行動をとる生徒が増えたが、周りをみて行動する生徒はまだ少なく、リーダーシップやコミュニケーション能力の育成が必要である。座学や実習、学校行事など様々な場面で指導を続けていきたい。 ・気になる生徒に関して、組織的に対応することができた。しかし、生活習慣が確立できていない生徒や、精神的に強くなる必要がある生徒もいるため、継続して組織的に対応していきたい。 ・一次試験が不合格になった生徒もいたが、キャリア教育部や学年、科の職員で連携し取り組んだことで、進路実現を達成することができた。来年度も厳しい状況が予想されるため、引き続き教員間の連携を強め、組織的に指導していきたい。 ・インターンシップや工場見学が中止となったこともあり、日々の指導を大切にし、キャリア教育の充実に取り組んできたが、生徒の進路に対する意識はまだまだ低い。来年度もコロナの影響で行事や求人状況がどうなるかがわからないため、より一層日々の指導に重点をおき、自ら将来を切り拓いていく力を育んでいきたい。
		・アクティブラーニング型授業の展開や、ICT機器を活用することで、授業や実習の改善・充実に努める。	A			
		・座学と実習内容の連携を強め、学力向上を図る。	B			
		・課題研究等を通して自ら課題を見つけ、問題解決を図る能力の育成に努める。	A			
		・適切な課題等工夫し、家庭学習を含めた学習習慣を身につけさせる。また、課題等の提出期限を厳守させる。	B			
	・社会人として通用する資質・能力を身につけさせる。	・気になる生徒に関しては、保護者に相談し情報を共有して組織的に対応する。	A	A		
		・欠席、遅刻を減らし、各学年30名以上の皆勤者を目指す。	B			
		・教室や実習室の環境整備を心掛けさせ、規範意識の向上に努める。	A			
		・実習の中で、生徒の役割と責任ある行動を持たせる。各パートにおいて成功体験を通し、自尊感情の向上に努める。	A			
	・進路指導の充実と進路実現を目指し、キャリア教育の推進を図る。	・危険物取扱者・高圧ガス製造保安責任者といった専門性の高い資格の合格率5割以上を目指し、ジュニアマイスター認定者を増やす。	B	B		
		・第一希望100%の進路実現を目指し、科の職員全員で3学年担任をサポートしながら、学習・面接等の指導を行う。特に女子生徒の進路希望実現に向けて、キャリア教育部、学年と連携して取り組む。	B			
		・進路実現に向け努力を継続できるよう、インターンシップ・工場見学・高度熟練者による実践的な学習指導等の機会を通して進路意識を高め、自ら将来を切り拓いていく力を育む。	B			

評価の基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった